

第 4 1 回ユネスコ世界遺産委員会について（概要）

平成 2 9 年 7 月
文化庁記念物課世界文化遺産室

1. 開催概要

期間：2017年7月2日～7月12日

場所：ポーランド共和国 クラクフ

2. 主な審議結果

(1) 世界遺産一覧表への記載に係る審査

推薦書提出資産39件のうち6件の取り下げがあった（事前取り下げ4件、直前取り下げ2件）。そのため33件（うち5件は拡張申請）について審議され、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」を含む21件（文化遺産18件、自然遺産3件、複合遺産0件）を新たに記載することが決定された。

この結果、世界遺産は総計1073件（文化遺産832件、自然遺産206件、複合遺産35件）となった。【参考1、2参照】

※ 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」については、7月9日午前（現地時間）に審議が行われた。インドネシアらの発議により構成資産に宗像大社辺津宮、同中津宮、同沖津宮遥拝所、新原・奴山古墳群を加える形で一覧表への記載が決定された。【参考3～5参照】

※ 「ンバンザコンゴ歴史地区」（アンゴラ、文化）、「アスマラ：アフリカの近代建築都市」（エリトリア、文化）は当該国において初の世界遺産一覧表への記載となった。

(2) 資産の保全状況に係る審査

今回の委員会では、99件（うち55件は危機遺産）が保全状況審査の対象となった。

この中で議論された内容としては、全般的な管理体制・法的保護の不備の他、①武力衝突に関わるもの（例：イラク・シリア・リビアの危機遺産）、②資産地区内あるいは近傍における開発行為に関わるもの（例：「リヴァプール」（英国）、「ウィーン歴史地区」（オーストリア））、③鉄道建設等のインフラ整備に関わるもの（例：「ラホール城塞とシャーリマール庭園」（パキスタン））、④自然災害に関わるもの（「カトマンズの谷」（ネパール））等が挙げられる。

(3) 危機遺産一覧表の更新

世界遺産一覧表記載に係る審査及び保全状況に係る審査における審議の結果、2件の資産が新たに危機遺産一覧表に追加され、3件の資産が解除された。この結果、

危機遺産は54件（文化遺産38件、自然遺産16件）となった。

※危機遺産一覧表に追加された資産（2件） <資産名称は仮訳>

- ・ウィーン歴史地区（オーストリア、文化）
- ・ヘブロン/アル=ハリール旧市街（パレスチナ、文化。本資産は世界遺産一覧表への記載と同時に危機遺産一覧表に追加）

※危機遺産一覧表から解除された資産（3件） <資産名称は仮訳>

- ・コモエ国立公園（コートジボワール、自然）
- ・ゲラティ修道院（ジョージア、文化）
- ・シミエン国立公園（エチオピア、自然）

(4) アップストリーム・プロセス

今後はアップストリーム・プロセスを受けたい案件について、締約国から年間10件を上限に受け付け、10件以上の申請があった場合は、途上国及び『作業指針』パラグラフ61項に規定される審査の優先順位に沿って採択することを試行的に2018年から2年間実施することが決定された。

なお、第43回世界遺産委員会において『作業指針』を改訂し、正式な手続きとして上記を位置づけることが決定される見込み。

(5) 第3期定期報告の開始

定期報告については、各地域グループの報告順（アラブ→アフリカ→アジア・太平洋→ラテンアメリカ→ヨーロッパ・北アメリカ）、6年周期を維持すること、第3期は2018年にアラブ地域から開始することが決定された。

(6) 第42回世界遺産委員会について

2017年11月にユネスコ本部で開催される予定の第21回世界遺産条約締約国総会の期間中に、第12回世界遺産委員会特別会合を開催し、第42回世界遺産委員会の議長等及び開催地、会期を決定することとした。そのため、当該特別会合まで今次委員会の議長・副議長・書記の任期を延長することとした。

第41回ユネスコ世界遺産委員会(2017年:クラクフ)における
新規推薦及び拡張申請に係る勧告及び審議結果【8B】

参考1

NO.	国名	遺産名(仮訳)	種別	勧告	決議	備考(過去の審議結果等)
1	パレスチナ自治政府	Hebron/Al-Khalil Old Town ヘブロン/アル=ハリール旧市街	文化	-	I	新規、2017年危機遺産登録
2	アンゴラ共和国	Centre historique de Mbanza Kongo ンバンザコンゴ歴史地区	文化	I	I	新規
3	アゼルバイジャン共和国	Historic Centre of Sheki with the Khan's Palace ハーン宮殿とシャキ歴史地区	文化	N	R	新規
4	バーレーン	Dilmun Burial Mounds ディルムンの古墳群	文化	W		新規
5	ブラジル	Valongo Wharf Archaeological Site ヴァロンゴ埠頭の考古遺跡	文化	I	I	新規
6	カンボジア王国	Sambor Prei Kuk Archaeological Site representing the Cultural Landscape of Ancient Ishanapura 古代真臘(イ=シャナプラ)の文化的景観を表すサンボー・プレイ・クック遺跡	文化	D	I	新規
7	中国	Kulangsu: a historic international settlement 鼓浪嶼: 歴史的租界	文化	I	I	新規
8	イタリア共和国、クロアチア共和国、モンテネグロ	Venetian Works of Defence between 15th and 17th Centuries 15~17世紀のヴェネチアの防衛施設群	文化	I	I	新規
9	デンマーク	Kujataa - a subarctic farming landscape in Greenland クジャッターグリーンランドの亜北極農業景観	文化	R	I	新規
10	エリトリア国	Asmara: Africa's Modernist City アスマラ: アフリカの近代建築都市	文化	I	I	新規
11	フランス	Taputapuatea タプタプアテア	文化	I	I	新規
12	フランス	Strasbourg: de la Grande-île a la Neustadt, une scène urbaine européenne ストラスブール、グラン・ディルからノイシュタット、ヨーロツパの都市の景色	文化	OK	OK	1988年登録
13	ジョージア	Gelati Monastery ゲラティ修道院	文化	OK	OK	1994年登録 2010年危機遺産登録 2015年の境界線変更申請 に対して情報照会
14	ドイツ	Caves and Ice Age Art in the Swabian Jura シュヴァーベンジュラ山脈の洞窟群と氷河期アート	文化	I	I	新規
15	ドイツ	The Bauhaus and its sites in Weimar, Dessau and Bernau ヴァイマル、デッサウ、ベルナウのバウハウスと関連遺産	文化	OK	OK	1996年登録
16	ドイツ	Luther Sites in Central Germany 中央ドイツのルターの建造物群	文化	NA		1996年登録
17	ドイツ	Naumburg Cathedral and the High Medieval Cultural Landscape of the Rivers Saale and Unstrut ナウムブルク大聖堂と、ザーレ川とウンシュルト川の中世盛期の文化的景観	文化	N	R	2015年記載延期
18	インド	Historic City of Ahmadabad アフマダーバード歴史都市	文化	D	I	新規
19	イラン・イスラム共和国	Historic City of Yazd ヤズド歴史都市	文化	D	I	新規
20	日本国	Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群	文化	I	I	新規
21	ヨルダン・ハシメット王国	As-Salt Eclectic Architecture (1865-1925), Origins and Evolution of an Architectural Language in the Levant アッ=サルトの折衷主義建築(1865-1925) レバント地域の建築的言語の起源と進化	文化	N	D	1994年記載延期
22	ポーランド	Tarnowskie Góry Lead-Silver-Zinc Mine and its Underground Water Management System タルノフスキェ・グレイー鉛、銀、亜鉛鉱山と地下水管理システム	文化	D	I	新規
23	韓国	Hanyangdoseong, the Seoul City Wall ソウルの城壁、漢陽都城	文化	W		新規
24	モルドバ	Orheiul Vechi Archaeological Landscape オルヘユル・ヴェキの考古景観	文化	W		新規
25	ロシア連邦	The Assumption Cathedral of the town-island of Sviyazhsk スヴィヤズク島の聖母被昇天大聖堂	文化	I	I	新規
26	南アフリカ共和国	#Khomani Cultural Landscape コーマニの文化的景観	文化	D	I	新規
27	スペイン	Talayotic Minorca タライオティック文化のメノルカ島	文化	D	D	新規
28	トルコ	Aphrodisias アフロディシアス	文化	D	I	新規
29	アラブ首長国連邦	Khor Dubai, a Traditional Merchants' Harbour ホール・ドバイ(ドバイ・クリーク)、伝統的商人の港	文化	N	R	2014年記載延期
30	英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	The English Lake District イギリス湖水地方	文化	I	I	1990年審議見送り
31	メキシコ合衆国	Tehuacán-Cuicatlan Valley: originary habitat of Mesoamerica テワカン=クイカタン渓谷: メソアメリカ文化発祥の地	複合	D	R	新規
32	アルバニア、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、クロアチア、イタリア、ルーマニア、スロベニア、スペイン、	Primeval Beech Forests of the Carpathians and Other Regions of Europe カルパティアおよびヨーロッパの他地域のブナ原生林群	自然	D	OK	2007年登録 2011年範囲拡大
33	アルゼンチン	Los Alerces National Park ロス・アレルセス国立公園	自然	I	I	新規
34	ベナン、ブルキナファソ	W = Arly - Pendjari Complex W=アルリ=ペンジャリの公園群	自然	OK	OK	拡張申請
35	中国	Qinghai Hoh Xil 青海可可西里	自然	I	I	新規
36	ガーナ	Mole National Park モール国立公園	自然	N		新規
37	インド	Bhitarkanika Conservation Area ビターカニカ保全地域	自然	N	N	新規
38	イタリア共和国	Sila National Park シーラ国立公園	自然	W		新規
39	モンゴル、ロシア連邦	Landscapes of Dauria ダウリアの景観郡	自然	I	I	2015年情報照会

※凡例
【I】記載(Inscription), 【R】情報照会(Referral), 【D】記載延期(Deferral), 【N】不記載(Not to inscribe), 【OK】拡張承認(Approve an extension), 【NA】不承認(拡張)(Not to Approve), 【W】取下げ(Withdraw)

第41回世界遺産委員会における推薦案件に係る審議結果概要等

種 別	第41回世界遺産委員会 における新規記載件数	世界遺産一覧表記載資産数 2017(平成29)年7月12日現在
自然遺産	3	206
複合遺産	0	35
文化遺産	18	832
合 計	21	1073

	諮問機関勧告	世界遺産委員会決議
記 載 (Inscription)	13	21
情報照会 (Referral)	1	4
記載延期 (Deferral)	9	2
不記載 (Not to inscribe)	6	1
拡張承認 (Approve an	4	5
不承認(拡張) (Not to Approval)	1	0
合 計	34	33
取下げ ² (Withdraw)	4	2

『^{かみやど}神宿る島』^{むなかた}宗像・沖ノ島と関連遺産群』にかかる決議概要

(1) 記載の可否と評価基準

- 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」を，評価基準(ii)及び(iii)に基づいて世界遺産一覧表に記載する。
- 暫定的な顕著な普遍的価値(OUV)の言明に留意する。

(2) 追加的勧告

- 締約国が以下について検討するよう勧告する。
 - a) 「保存活用協議会」を設立し，資産の所有者代表を参画させること。
 - b) 他の関係者の役割及び彼らによる管理体系を明確化し，資産の管理において彼らが効果的に共同できるようにすること。
 - c) 洋上又は陸上における風力発電施設の建設について，「適切に制限されている」とするだけでなく，資産範囲及び緩衝地帯，さらには資産範囲外であっても構成資産の視覚的完全性に影響を及ぼしうる範囲において，完全に禁止すること。
 - d) 遺産影響評価の手法を管理システムに組み込むこと。
 - e) 計画中の開発事業のうち，資産のOUV及び属性に影響を及ぼしうるものについては遺産影響評価を行い，その結果について世界遺産委員会及びイコモスにおいて検討できるよう，事業の承認及び着手にかかるあらゆる最終決断が行われる前に報告すること。
 - f) 緩衝地帯の東南角に位置する山体について，山頂を緩衝地帯内に含むこと。
 - g) 沖ノ島に対する違法な上陸及び船舶の接近の増加が懸念される点について考慮すること。
 - h) 締約国及び関係国間で，交易・航海・信仰に関する研究を継続，拡充させること。

Decision: 41 COM 8B.19

The World Heritage Committee,

1. Having examined Documents WHC/17/41.COM/8B and WHC/17/41.COM/INF.8B1,
2. Inscribes the **Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region, Japan**, on the World Heritage List on the basis of **criteria (ii) and (iii)**;
3. Takes note of the following provisional Statement of Outstanding Universal Value:

Brief synthesis

Located 60 km off the western coast of Kyushu Island, the Island of Okinoshima is an exceptional repository of records of early ritual sites, bearing witness to early worship practices associated with maritime safety, which emerged in the 4th century AD and continued until the end of the 9th century AD, at a time of intense exchanges between the polities in the Japanese Archipelago, in the Korean Peninsula, and on the Asian continent. Incorporated into the Munakata Grand Shrine (Munakata Taisha), the Island of Okinoshima continued to be regarded as sacred in the following centuries up until today.

The entirety of the Island of Okinoshima, with its geomorphological features, the ritual sites with the rich archaeological deposits, and the wealth of votive offerings, in their original distribution, credibly reflect 500 years of ritual practices held on the Island; the primeval forest, the attendant islets of Koyajima, Mikadobashira and Tenguiwa, along with the documented votive practices and the taboos associated with the Island, the open views from Kyushu and Oshima towards the Island, altogether credibly reflect that the worship of the Island, although changed in its practices and meanings over the centuries, due to external exchanges and indigenisation, has retained the sacred status of Okinoshima.

Munakata Taisha is a shrine that consists of three distinct worship sites – Okitsu-miya on Okinoshima, Nakatsu-miya on Oshima, and Hetsu-miya on the main island of Kyushu, all of which are located within an area that measures some 60 kilometers in breadth. These are the living places of worship that are linked to ancient ritual sites. The form of worshipping the Three Female Deities of Munakata has been passed down to the present day in rituals conducted mainly at the shrine buildings. Okitsu-miya Yohaisho, built on the northern shore of Oshima, has functioned as a hall for worshipping the sacred island from afar. The Shimbaru-Nuyama Mounded Tomb Group, located on a plateau overlooking the sea that stretches out towards Okinoshima, is composed of both large and small burial mounds, bearing witness to the lives of members of the Munakata clan, who nurtured a tradition of worshipping Okinoshima.

Criterion (ii): The Sacred Island of Okinoshima Island exhibits important interchanges and exchanges amongst the different polities in East Asia between the 4th and the 9th centuries, which is evident from the abundant finds and objects with a variety of origins deposited at sites on the Island where rituals for safe navigation were performed. The changes, in object distribution and site organisation, attest to the changes in rituals, which in turn reflect the nature of the process of dynamic exchanges that took place in those centuries, when polities based on the Asian mainland, the Korean Peninsula and the Japanese Archipelago, were developing a sense of identity and that substantially contributed to the formation of Japanese culture.

Criterion (iii): The Sacred Island of Okinoshima is an exceptional example of the cultural tradition of worshipping a sacred island, as it has evolved and been passed down from ancient times to the present. Remarkably, archaeological sites that have

been preserved on the Island are virtually intact, and provide a chronological record of how the rituals performed there changed over a period of some five hundred years, from the latter half of the 4th to the end of the 9th centuries. In these rituals, vast quantities of precious votive objects were deposited as offerings at different sites on the Island, attesting to changes in rituals. While direct offerings on Okinoshima Island ceased in the 9th century AD, members of the Munakata clan played an instrumental role in establishing and safeguarding the worship of the Island in the form of worshipping the Three Female Deities of Munakata at three distinct worship sites of Munakata Taisha – Okitsu-miya on Okinoshima, Nakatsu-miya on Oshima, and Hetsu-miya, along with “distant worship” exemplified by the open views from Oshima and the main island of Kyushu toward Okinoshima.

Integrity

The sacred Island of Okinoshima, with the other seven components, comprise all attributes necessary to illustrate the values and processes expressing its Outstanding Universal Value. The property ensures the complete representation of the features illustrating the property as a testimony to a worshipping tradition of a sacred Island for safe navigation, emerging in a period of intense maritime exchanges and continuing in the form of worshipping the Three Female Deities of Munakata established by members of the Munakata clan. This has passed down to this day, through changes in ritual practices and meanings but whilst still retaining the sacred status of Okinoshima. The property is in good condition; it does not suffer from neglect and is properly managed, although careful consideration of potential impacts from off-shore infrastructure and increased cruise ship traffic is needed.

Authenticity

A substantial body of archaeological investigation and research on the Island of Okinoshima bears credible witness to the Outstanding Universal Value of the property; the unchanged location of the ritual sites, their distribution, and the still-abundant undisturbed deposits of votive offerings provide opportunities for future research and increased understanding of the values of the property. Existing restrictions and taboos contribute to maintaining the aura of the island as a sacred place.

Management and protection requirements

The property enjoys legal protection at the national level under several laws, designations and planning instruments; protection is also guaranteed by traditional practices, in the form of restriction of use and taboos that have proven effective over time until the present day.

The management system envisages an overarching management body, the Preservation and Utilization Council, which includes the representatives of Munakata City and Fukutsu City and Fukuoka Prefecture. The Council is tasked with coordination of and responsibility for the implementation of the “Preservation and Management Plan”, which incorporates four individual management plans covering different parts of the property as well as the buffer zone. To ensure full coordination and implementation of the management tasks, the owners of the property need to be involved in the Council; the representatives of the residents in the buffer zone and of the local businesses will coordinate and collaborate with the Preservation and Utilization Council. The National Agency for Cultural Affairs provides guidance and advice as well as an ad-hoc Advisory Committee. Minor repairs and everyday maintenance are carried out by craftsmen from the local community, using methods passed down from generation to generation.

4. Recommends that the State Party gives consideration to the following:

- a) *Establishing the Preservation and Utilization Council and including within it representatives of the owners of the property,*
- b) *Clarifying the role of the other stakeholders and the mechanisms to ensure their effective cooperation in managing the property,*
- c) *Stating that the construction of wind turbines, offshore or on land, will not only be "appropriately restricted" but will be totally forbidden within the entire property limits, including the buffer zone, as well as in areas outside the property where it would affect the visual integrity of the components,*
- d) *Setting up mechanisms to integrate a Heritage Impact Assessment approach into the management system,*
- e) *Developing specific HIAs for planned projects that may impact on the Outstanding Universal Value and the attributes of the property, and submitting their results to the World Heritage Committee and ICOMOS for review before any final decision is taken with regard to their approval and implementation,*
- f) *Confirming that the limit at the top of the mountain marking the south-eastern corner of the buffer zone incorporates entirely the summit,*
- g) *Giving due consideration to the potential threats by increased unregulated visitation and cruise ships,*
- h) *Continuing and expanding research programmes on maritime exchanges, navigation and related cultural and ritual practices within the State Party and its neighbouring countries.*

かみやど むなかた
 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」

本資産は、「神宿る島」沖ノ島を崇拝する文化的伝統が、古代東アジアにおける活発な対外交流が進んだ時期に発展し、海上の安全を願う生きた伝統と明白に関連し今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物証である。

沖ノ島には4世紀から9世紀の間の古代祭祀の変遷を示す考古遺跡が、ほぼ手つかずの状態です。沖津宮、中津宮、辺津宮の古代祭祀遺跡を含むこれらの三つの場は、宗像大社という信仰の場として現在まで続く。18世紀までに成立した沖津宮遙拝所は、上記で述べたような沖ノ島を遙拝する信仰の場である。そして、その信仰を担い育んだ宗像氏の存在を物語る資産が、新原・奴山古墳群である。

【構成資産】

むなかたたいしゃ おきつみや おきのしま こやじま みかどぼしら てんぐいわ むなかたたいしゃ おきつみやようはいしよ
 宗像大社沖津宮（沖ノ島，小屋島，御門柱，天狗岩），宗像大社沖津宮遙拝所，
 むなかたたいしゃ なかつみや むなかたたいしゃ へつみや しんぼる ぬやま こふんぐん
 宗像大社中津宮，宗像大社辺津宮（以上，福岡県宗像市），新原・奴山古墳群（福岡県福津市）



沖ノ島



宗像大社辺津宮



宗像大社沖津宮遙拝所



新原・奴山古墳群

【関係年表】

平成21年	暫定一覧表に記載
平成28年1月	ユネスコへの推薦書提出にかかる閣議了解
同年同月	推薦書の提出
同年9月7日～11日	イコモス現地調査
平成29年5月	イコモス勧告
同年7月9日	第41回世界遺産委員会(クラクフ)において、 世界遺産一覧表への記載が決定